

加古川市 誰もが豊かさを享受できる加古川スマートシティ推進事業(かがわICTまちづくり協議会)

■ 都市課題

都市防犯力・都市
防災力の向上
(広域サービス展開)

■ 解決方策

[実証①] 見守り活動の広域展開、浸水センサデータの
効果検証とDPFの共同活用を含む広域連携スキーム確立
[実証②] 刑法犯等発生状況の変化に対応した見守り
カメラの最適配置・高度化カメラの運用最適化等

■ KPI

実証	KPI	目標値	目標年度	
①広域防災 データ、広域見 守りサービスの 実証	広域見守りサービス	アプリ利用開始、検知数の増加	10%	R6年度
		サービス導入(予定)の自治体数	(市内)	R6年度
		サービス導入(予定)の自治体数	連携参加自治体	R6年度
		サービス導入(予定)の自治体数	(市内)	R6年度
②3D都市モデ ルを活用した次 世代見守りサー ビス	広域防災データ(データ連携基盤の共同利用含む)	サービス導入(予定)の自治体数	70%	R6年度
	データプラットフォームに関する理解増進に関するポリティクス評価	連携参加自治体		R6年度
	見守りカメラの最適配置	加古川市域における分析プロセス等の有用性・妥当性に関する検証	5分間隔検知の検出率	R6年度
	危険運転車両検知	加古川市域における分析プロセス等の有用性・妥当性に関する検証	5分間隔検知の検出率	R6年度

■ 実証実験の概要・目的

【実証①】広域見守りサービス、広域防災データ活用に関する実証: 広域見守りサービスでは、地域ポイント連携によるボランティア活動としての参加促進と、広域連絡会を通じたサービススキーム確立・サービス展開を図る。また、広域防災データ活用では、浸水センサーやDPF(データ連携基盤)の共同利用による広域防災データの活用推進を図る。

【実証②】3D都市モデルを活用した次世代見守りサービス: 3D都市モデルを活用した見守りカメラの最適配置と危険運転検知システムの運用改善等を図る。

■ 実証実験の内容

実証① 広域見守りサービス、広域防災データ活用に関する実証

[広域見守りサービス]

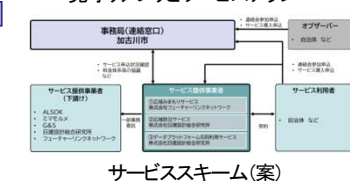
- ✓ 広域見守りアプリの普及促進・機能強化の検証
(実証期間: 2024.12 ~ 2025.01)
- ✓ サービススキームの深度化検討を実施
- ✓ 複数事業者(3社)のタグ検知データの活用方策
(レポートサービス: オプション)を検討



見守りアプリとサービスプラン

[広域防災データ活用(データ連携基盤の共同利用含む)]

- ✓ ワンコイン浸水センサー設置効果の理解促進と
サービススキームの検討
- ✓ 広域防災実証の実施(2025.01~2025.02)
- ✓ データプラットフォーム共同利用に対する理解促進



サービススキーム(案)

実証② 3D都市モデルを活用した次世代見守りサービス

[PLATEAUを活用した見守りカメラの最適配置(新規追加設置)]

- ✓ 犯罪発生件数、交通事故発生件数等の最新データを活用及び
PLATEAUを活用した見守りカメラの最適配置(新規追加設置検
討: 82台)を実施



PLATEAUを活用したカメラ画角等を可視化

[高度化見守りカメラの異常音検知、危険運転車両検知等]

- ✓ 高度化見守りカメラの異常音検知データ等を活用し、効果や運用課題を検証
- ✓ カメラ設置交差点の危険運転車両検知データを活用し、危険運転検知機能のクール
タイム(5分間)の妥当性を検証し、注意喚起アラートの適切な間隔を検証

■ 実証実験で得られた成果・知見

実証① [広域見守りサービス]

実証参加者(37人)の見守りボランティアの活動実績を把握し、その実績に応じたインセンティブを付与する機能を追加。インセンティブ付与が見守り活動を行うといった行動変容につながったことを確認。

広域連絡会等を通じて、広域的な見守りサービスの実施体制とサービススキームを決定。
見守りサービス事業者との協議を通じて、適切なデータの管理・連携方法、運用手順を確立。

実証① [広域防災データ(データ連携基盤の共同利用含む)]

広域連絡会での勉強会を通じて、浸水センサーの設置効果を検証するとともに、データ連携基盤の共同利用についての理解を深め、利用料金を含むサービススキームを確立。広域防災実証としてSlackでの発災前のコミュニケーション等を行い平時からのコミュニケーションが発災時に迅速に繋がるなどその有効性を確認

実証② [PLATEAUを活用した見守りカメラの最適配置(新規追加設置)]

刑法犯・交通事故の発生状況、既設カメラ配置、通学路等の情報をGISで分析。警察要望や商業施設内の状況も考慮し、カメラ設置の優先エリアと必要台数を算定。現地調査とPLATEAUによる画角シミュレーションで、最適な設置場所を決定。

実証② [高度化見守りカメラの異常音検知、危険運転車両検知等]

異常音(悲鳴・怒号)検知データの分析から、5分間のクールタイム(注意喚起間隔)は全体的に概ね妥当であることを確認。一方、一部地域・時間帯では短縮が必要な場所があることを確認。
車両接近検知の分析では、全体的に5分間のクールタイムは長すぎるため、クールタイム間隔の調整が必要であることを確認。

■ 今後の予定

【実証①】広域見守りサービス、広域防災サービスの実装

広域連絡会を継続開催し、広域見守り、防災、データ連携基盤共同利用参加団体の拡大及びサービススキームの横展開を図り、防災力・防犯力向上を実現していく。

【実証②】3D都市モデルを活用した次世代見守りサービス

見守りカメラによる地域防犯力向上の実現と、見守りカメラから取得されるデータを活用し、刑法犯抑制及び交通事故抑制効果について、継続実施を行う(EBPM観点)